

主 題：我らはみことばに立つ

聖書箇所：コリント人への手紙第二 2章17節

毎年、10月31日は「宗教改革の日」と呼ばれています。495年前の1517年10月31日、ドイツのヴィッテンベルグ城教会の扉に95箇条の提題を貼り付けたのは、あのマルティン・ルターでした。当時のローマ教会のあり方に疑義をぶつけました。ルターは罪の赦しを得るためにカトリック教会が販売した贖宥状（しょくゆうじょう）、かつては免罪符と訳されていましたが、それを批判したのです。カトリック教会はこれを購入することによって罪の赦しを得ることができるとしたのです。そこでルターはそのことに真っ向から反対しました。なぜ、彼がいのちがけで反対したのか、それは贖宥状によって罪が赦されるということは聖書的な教えでないことを確信していたからです。ルターは「ローマ人への手紙」の学びをしてこの結論に達したのです。「罪の赦し、救いは行ないによってではなく信仰のみによる。これが神の教えであり、これが神の真理である。」と、その確信を得たのです。そこで彼はカトリック教会の教えに「それは間違っている」と主張したのです。そして、ご存じのように、この行為がきっかけとなって、墮落した教会に対する革新運動が各地へと広がっていきます。多くの人々が声を上げるのです。ルターだけでなく、ツヴィングリ、ウィリアム・ティデル、みなさんもよくご存じのジョン・カルヴァンがいました。様々なところで彼らが声を大にして言ったことは、「神のみことばに立ち返ること」でした。というのは、彼らに共通していたのは彼らはみな神のみことばである聖書を心から愛していたことです。そして、人々が神のことばである聖書に従って主を礼拝することを望んだのです。

そこで、彼らは主に、そして、みことばに立ち返らなければならないと主張したのです。彼らは何か新しいものを発見したのではありませんでした。彼らはあるべき姿に立ち返ったのです。主によって造られた者たちが主が与えてくださった聖書のみことばに立ち返ったのです。ですから、彼らが掲げたスローガンの一つは「聖書のみ」でした。すなわち、神のおことばである聖書の権威に従うということ、それを彼らは告白したのです。彼らはその当時の権威であったローマ法王や教会の伝統などではなく、唯一の権威である神に、その神に与えられた聖書に従うことを呼び掛けたのです。

さて、教会が、また、すべてのクリスチャンが聖書の権威に服従する必要性はどの時代でも変わりません。どの時代でも我々イエス・キリストによって救われた者たちは、神のおことばである聖書に従い続けていくという大きな責任をいただいています。まさに、これこそ、父なる神が人々に命じて来られた生き方そのものです。そして、その生き方こそ、キリスト教の歴史を振り返るときに、信仰の勇者たちが歩んだ歩みでした。このような信仰者が今必要です。今の時代には特にこのような信仰者が必要です。ルターのような、そして、パウロのように、主の教えに忠実に従う者たち、神のおことばである聖書に堅く立って生きる信仰者が必要です。なぜですか？このような人々でなければ、神が人のために備えてくださった神のメッセージ、救いのメッセージを正しく伝えることが出来ないからです。

今日、私たちはIIコリント2章を見ていきますが、2：16の後半をご覧ください。「...このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。」とあります。主のみことばを、主の福音を語るにふさわしい者はいったいだれなのか？とパウロは言うのです。そして、パウロは「私たちだ！」と答えています。私と仲間たちだと言います。それを彼は暗黙のうちにこのみことばのうちに記すのです。というのは、17節の初めは、残念ながら日本語には訳されていないのですが、「だから」という意味をもった

接続詞で始まるのです。パウロは17節から理由を説明するのです。福音のメッセージを正しく語るにふさわしい者は私たちだというその理由です。しかも、パウロはその当時教会に存在した偽りの教師たちと対比しながら、自分たちがふさわしい理由を述べています。

## ☆福音を語るにふさわしい者たちの四つの特徴

このような人たちが必要なのです。このような人たちを神はお用いになるのです。ルターも、宗教改革に携わった多くの者たちも、時代を越えて神はこのような人たちをお用いになります。

### 1. 主への愛=正しい動機 : 真心から

17節の前半に「私たちは、多くの人のように、神のことばに混ぜ物をして売るようなことはせず、」とあります。最初に、パウロは動機のことを話します。メッセージを語る者に必要なこと、大切なことは「正しい動機をもつことだ」と言います。その動機とは「神に対する愛」です。神を愛しているなら、その神に喜ばれたいと願うのは当然です。パウロが言うように「私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようとして語るのです。」(1テサロニケ2:4)、「神を喜ばせようとして、」、なぜなら、神を愛しているからです。それを動機として語るのです。

#### 1) 偽使徒、偽教師の誤り

しかし、残念ながら、このコリント教会には問題があったのです。神を愛していない人がメッセージを語っていたのです。パウロのことばを借りるなら「偽使徒たち」です。「我々は使徒だ」と言っている偽りの使徒たち、偽りの教師たちが教会の中にいたのです。彼らは神を愛していないから、神のみことばに従おうともしていません。そのような者たちが神のことばを語っていたのです。

#### (1) 偽りのメッセージ : 「混ぜ物をして売る」

ですから、彼らのメッセージは当然偽りのメッセージであったことは明らかです。パウロは「神のことばに混ぜ物をして売るようなことはせず、」と言います。「混ぜ物をして売る」とは一つのギリシャ語です。面白いことばが使われているのですが、直訳すると「小売をする、行商人、商売人」、何らかの商いをしている人たちを指すことばです。それなら、なぜ、このことばを訳者は「混ぜ物をして売る」と訳したのでしょうか？なぜ、「小売人、行商人」ということばを使わなかったのでしょうか？実は、その当時、このような小売人たち、行商人たちはいつも不正を行っていました。一般的には汚い個人的利益のために、彼らは何でもしていたのです。少しでも利益を得るためならどんな汚いことでもしたのです。古代においては、小売人は不正直者として悪名高かったとも言われています。たとえば、彼らが売ったものの中にはワインがありました。彼らは少しでも利益を得るためにそこに水を混ぜたのです。また、天秤でもって物を量り売りしていましたが、錘、分銅を偽って儲けようとしたのです。そのことをパウロもコリントの読者たちもよく知っていました。ですから、パウロはそのような人を指すことばを使って、教会内でのことに人々の目を向けさせるのです。

世の中ではマーケットに行くとそのようなことをしている人たちが溢れているけれど、実は、教会の中でも同じようなことをしている人たちがいると言っているのです。彼らは「神のことばに混ぜ物を」する、純粋に正しく神のことばを語るのではなく、そこにいろいろなものを混ぜている人たち、自分たちに都合のいいことを語っている人たちがいるとパウロは言うのです。ですから、IIコリント4:2には「恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています。」とあります。彼らは神のことばを曲げているのです。自分に都合のいいように神のことばを曲げるのです。そのような人たちがいたのです。彼らのことをパウロは「偽使徒」と呼んでいます。IIコリント11:4には「というわけは、ある人が来て、私たちの宣べ伝えなかった別

のイエスを宣べ伝えたり、あるいはあなたがたが、前に受けたことのない異なった霊を受けたり、受け入れたことのない異なった福音を受けたりするときも、あなたがたはみごとにこらえているからです。」とあり、ある人が教会にやって来て彼らはパウロたちが宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたと言います。彼らはみことばを曲げているのです。そして、13-15節には「こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。:14 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。:15 ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。」とあります。

ですから、コリント教会に偽使徒が入り込んで来たのです。「我々は使徒だ」と言って、彼らは神のことばに全く反する教えを持ち込んで来たのです。パウロはコリント教会だけでなく、ガラテヤ人への手紙でもそのようなことを話して警告しています。ガラテヤ1:6-7「私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あなたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いています。:7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるわけではありません。あなたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしているだけです。」。このような人たちがいたのです。彼らは福音の真理、神のみことばの真理をいろいろなもの曲げてしまった、「神のことばに混ぜ物をして」教えていたのです。

2:17に戻って、「多くの人のように、」と記されています。ということは、パウロの時代にも、多くの偽りの教師たちが存在していたことをパウロは教えています。このように見ると、どちらかと言うと、偽りの教師たちのほうが多くて、自分たちのほうが少数であると、そのような状態であったことを私たちは知ることができます。偽りの教師たち、福音を別のものに変えてしまって、あたかも、それが神の福音であるかのように教える人たち、このような人たちの存在は常にあります。パウロたちの時代も、ルターたちの時代も、そして、今の私たちの時代も変わらないのです。聖書が教えていない教えを教えている者たちがたくさんいるのです。つい先日、朝日新聞に「巨大教会で熱烈礼拝」というシンガポールの大きな教会の記事が載っていました。信徒数が33,000人の教会と、ご覧になった方もおられるでしょう。なぜ、その教会は大きくなったのか？牧師は「神は我々が繁栄することを望まれている」と語っていると言います。そして、「あなたの寄付があなたの信仰の物差しとなる。」と。つまり、あなたがたくさんささげるならあなたは物質的に益々豊かになるということです。このような物質的な繁栄を約束する教会はたくさんあります。アメリカにも多くあります。彼らが約束することは「信仰をもつことによってあなたは物質的に豊かになるし、あなたの健康はいつも守られます」です。このような福音のメッセージが広がって、そのような教会にはたくさんの方が集まります。

でも、果たして聖書はそのようなことを教えているのでしょうか？主イエス・キリストを信じたなら、あなたには問題がなくなって、豊かな富を得て、健康であると。パウロを見てください。彼は裕福な家庭に生まれました。しかし、イエス・キリストを信じた後のパウロは迫害に次ぐ迫害に遭いました。いったい、聖書のどこに、イエス・キリストを信じたなら物質的に非常に豊かな生活が待っていますと約束しているのでしょうか？聖書は「神はあなたの必要を満たす」と約束します。あなたが経験する様々な苦しみは、イエスが言われたように「わたしを迫害するなら、彼らはあなたがたをも迫害する」の通りです。いろいろな迫害やいろいろな困難、苦しみを私たちは通ります。でも、それはすべて神があなたを愛するゆえに与えられるのです。なぜなら、それらを通してあなたの信仰が成長するからです。

しかし、実際に私たちの信仰を振り返ってみたときに、そこには様々な苦しみがありました。いろいろな問題、病がありました。でも、その中であってあなたが主を見上げるときに、主はそこにすばらしい働きを為してくださった。確かに、この地上は私たちにとって住みやすいところではありません。私た

ちはその先を望んでいます。神が備えてくださったすばらしい場所です。しかし、このような大変な中であっても、私たちは満足をもって、喜びをもって、感謝をもって歩いていくことができるのです。その秘訣は、物がなくても、病の中であっても、私を愛して私を救ってくださった主がともにいてくださるからです。この方が私を守ってくださっている、この方が私を導いてくださっているからです。しかし、残念ながら、何かを約束するメッセージ、物質的な豊かさや健康を約束するメッセージによって多くの人々がそれらに導かれています。そのような福音は神が教えている福音ではありません。まさに、その姿は私たちがイエス・キリストを信じる前の姿と同じではないですか？ご利益です。こうすればこのようなものが手に入れられる...と。私たちは何かを得るために信じたものではありません。私たちは自らの歩みが間違っていたことに気付いて、神の前に正しくありたいと願ったのです。私たちは創造主なる神によって造られ、そして、生かされていながらその神に背を向けて自分勝手に生きていました。その罪を神の前に悔い改めて、私たちを造り私たちを愛してくださっている神に従っていかうとしたのです。そうしてイエス・キリストを受け入れたのです。

## (2) 偽りの動機

残念ながら、そのような何かを提供するというメッセージは非常に人々の関心を得ています。そこに多くの人が集まるのです。しかし、実際に、そのようなことを知ると私たちの心は痛みます。先の記事はこのように続きます。「この牧師ら教会の幹部5人は今年6月、信徒から集めた寄付金2400万シンガポールドル、約15億4000万円を牧師の妻の歌手活動などに不正流用した容疑などで逮捕、起訴された。その金額の大きさにメディアやネットには『信仰ではなく商売』などと批判が殺到した。牧師は罪を認めておらず、保釈後も以前と同様に説教を続けている。最高で終身刑の可能性もあるが、カリスマ的人気は衰えていない。」と。非常に悲しく、また、恐ろしいことが起こっているのです。パウロの時代ではなかったのです。どの時代でもこのような問題は起こり得るのです。パウロは言います。偽りの教師たちは正しい動機をもって働きをしていないと。今、私たちが見て来たように、このコリントの教会では多くの偽りの教師たち、偽りの使徒たちが教会に入り込んで偽りのメッセージを語って人々を混乱に陥れていたのです。なぜですか？その動機は神のため、その教会の人々のためでもなく、自分自身の利益のためにそのようなことをしていたのです。Ⅱペテロ2：3に「**また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食い物にします。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行なわれており、彼らが滅ぼされないままにいることはありません。**」とあります。そこに金を得る手段を見出すとそれに食らい付いてくると言うのです。自分たちの利益のために教会に入り込み、偽りの使徒として神のメッセージではない自分たちのメッセージによって人々を惑わしていたのです。彼らの関心は自分のことです。そのような人たちがいたのです。

## 2) パウロたちの働き

そこでパウロは「私たちは違う！」と言うのです。我々は神の真理を語ると言います。そのことをパウロはこのような表現をもって語ります。

### (1) 真理を語る

17節に「**神のことばに混ぜ物をして**」売っている人たちが教会にいたと言いました。しかも、そのような人たちがたくさんいたと言います。それに対して、自分たちは「**混ぜ物をして売るようなことはせず、真心から、**」と言います。「真心」というギリシャ語は二つのことばの合成語です。一つは「陽光」、太陽の光です。もう一つは「さばくこと」です。どういう意味でしょう？太陽の光をもって調べるということです。実は、その当時の行商人たちは先に言ったように様々な不正を行っていたのですが、その中の一つに、彼らが壺を売るときにひびを隠すためにそこに塗料を塗ることがありまし

た。表面からは見えません。そういう壺を売ったのです。そこで人々は市場で壺を買うときは、壺を太陽にかざしてひびの有無を確かめるのです。パウロはそのことばを使うことによって、偽りの教師たちが語っているメッセージに誤りがあることが分かる、でも、私たちが語っているメッセージはそうではない。陽にかざされたとしてもそこにはひびは入っていないと言うのです。

## (2) 正しい動機

彼らは神を愛するゆえに神のメッセージを正しく語ろうとしました。それが彼らの動機です。同時に、彼らはコリントの人々を愛していたのです。そのことはⅡコリント 2：4 に記しています。この手紙を書いた理由をパウロはこのように記しています。「私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、私あなたがたに対して抱いている、あふれるばかりの愛を知っていただきたいからでした。」と。パウロはコリント教会の人たちを愛していたのです。そして、愛しているゆえにこの手紙を送ったと言います。私たちがそうです。愛している人々には最高のものを望み、最高の幸せを求めます。だから、私たちは自分の愛する者たちにこの救いを語るのです。彼らが間違っても永遠の地獄にいかないためです。彼らを愛するから、彼らが救いに至ってこのすばらしい祝福に至ることを望んでいるから、私たちは涙をもって祈りをもって福音を語り続けるのです。彼らの最善を願うからです。パウロはコリントの教会を愛していたのです。彼らを愛しているゆえに、彼らにとって大切なことを、彼らがどのように思っているかに関係なく、神のメッセージを語ろうとしたのです。なぜなら、人間のメッセージは人を根底から変えないからです。

神が私たちが根底から変えてくれます。だから、神のメッセージを語る事が大切なのです。皆さんにもその通りです。人間の考えを聞いても一時的な慰めや励ましがあって「なるほど」と思っても、余り意味はありません。私たちが聞きたいのは神が何と言われているかです。私たちが造られすべてを治めておられる神が何と言われているかです。パウロは彼らを愛するゆえに、彼らに神のメッセージを忠実に語ろうとしたのです。確かに、パウロが言うように、パウロはコリント教会の人たちを愛していましたが、それはまさにパウロ自身が神を愛していたことを私たちに証するものです。真理を知ってほしいと願ってパウロはこの働きをしていたのです。

偽りの教師たちは誤った動機を持っていました。自分たちの利益のためです。パウロは神を愛するゆえに、神に喜んでいただきたいという思いをもって神のメッセージを忠実に語り続けました。混ぜ物をするような恐ろしいことはしなかったのです。

## 2. 主からの召命 : 神によって

17節に「また神によって、」とあります。見て来たように、偽りの使徒たちは教会に入り込んで「自分たちは神から召された使徒である」と言いました。そこでパウロは「私たちは神から召された者だ」と、そのことをここで「また神によって、」言うのです。神が私たちが召してくださった。神が私たちを選んでくださった。自分たちの勝手な願望によってではなく、神ご自身の意志によって私たちはこの務めに就いたと言います。Ⅱコリント 4：1 をご覧ください。「こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられているのですから、」とあります。神のあわれみによって、神がそのことをしてくださったとパウロは言うのです。神が私を選び、この務めを与え用いてくださっていると。1テモテ 1：12にも「私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。」とあります。

## 3. 主への畏れ : 神の御前で

17節に「神の御前で」とあります。神のメッセージを語るにふさわしい人は「主への畏れ」をもって人です。主を愛する人だけでなく、主から召された人だけでなく、主への畏れをもって人、だ

から、「**神の御前で**」と書かれています。パウロはこのように言います。「私がどこに行こうとも、24時間のどの時間帯であっても、私はいつも神の御前にいる。」と。言い方を変えるなら、「いつも神が私を見ておられる。」ということです。起きている間も眠っているときも神は私を見ておられると、そのことを言っているのです。神が用いられる働き人はいつもそのことを覚えている人、つまり、神が私のすべてを見ておられるという真理によって、神に対する聖い畏れを抱いている人です。神は私たちの考え、思い、ことばも行ないもそのすべてをご覧になっておられる、それが神だと言うのです。ダビデはこのように言いました。詩篇16：8a「**私はいつも、私の前に主を置いた。**」と。いつも神が自分のことを見ておられると、そのことを覚えてダビデは生きたのです。

また、ヘブル人への手紙の著者もこのように言います。4：13「**造られたもので、神の前で隠れおさせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。**」と。神はあなたの心のすべてを見ておられる、どのような考えをもっているか、どんな思いをもっているか、どのようなことを想像しているか、全部知っておられる。『**神の前で隠れおさせるものは何一つなく**』と。そして、この方が私たちをさばくのです。IIコリント5：10に「**なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。**」とある通りです。ですから、私たちが主の前に立つとき、主は私たちのすべてをご存じで、それにふさわしい報いを与えるということです。パウロはそのことを知っていました。私のすべてを見ておられる神が私をさばく、その日がやって来ると。そこで、彼はこの日を神の前に正しく生きていきたいとしたのです。自分が語るメッセージには責任があります。自分の行動には責任があります。パウロは主の前に立つというその現実を覚えて「だから、正しくありたい」と願ったのです。だから、彼は神のメッセージを絶対に曲げないし、正しい動機をもって正しいメッセージを語っていきたくて願ったのです。道理で神がパウロを用いたのがよく分かります。彼は心から神を愛していたのです。その愛がすべての動機になっていました。彼は神から与えられた務めに忠実に従って行きました。

そして、同時に、彼は神を畏れながら日々を過ごしました。私のすべての責任は私にあると。ですから、彼は語ることに、行なうことに、すべてに注意を払いながら神に喜ばれるように歩いていこうとしたのです。神が祝されるのは当然です。

#### 4. 主の恵み : キリストにあって

17節「**キリストにあって語るのです。**」、パウロはここでこのように主に喜ばれる働き人として歩いていくためには神の助けが必要であることを知っていました。何度も学んでいるように、みことばは私たちにどのように生きていくべきかを教えてくれます。そして、実際にそのことを行なっていくために、私たちには神の助けが必要だということを、私たちはいつも覚えることが大切です。パウロはIコリント15：10で「**ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。**」と言いました。救われたことも神の恵みであるし、信仰者として歩いていくその力も、実は、神が備えてくださった力、恵みであると。神は「わたしが助けるから、わたしの力をもらって歩いていきなさい。」と言われます。パウロはよく知っているのです。主に喜ばれる歩みを為していくためには100%主の助けが必要であることを。イエスはヨハネ15章でぶどうの木と枝のことを話されたとき、このようなことを言われました。15：4「**わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。**」と。幹と枝がしっかりつながっていなけ

れば実を結ぶことがないように、私たちも神にしっかりとつながっていなければ働きを為すことができないのです。

パウロの人物像が見えて来ましたか？彼は神のおことばを忠実に正しく語り続けました。彼は主によって召されたことを自覚して生きた信仰者です。彼はいつも主によってさばかれるそのさばきのことを思いながら生きた人物です。そして、彼は神の恵みによって生きた人物です。このような人物だから、神はご自身のメッセージを喜んでパウロに託したのです。そして、感謝なことに、パウロだけではなかったのです。パウロと同じように歩んでいる者たちに、神はこのようすばらしい務めを与えてくださったのです。神を愛して神の召しに忠実で、どんなときにも神を恐れながら神の助けによって生きた信仰者、そのような信仰者であったパウロ、多くの信仰の勇者たち、私たちはそのような人たちが存在したことを知っています。ルターも、多くの者たちはこのように生きたのでしょう。彼らは黙っていられなかった、神のおことばに従うべきだと主張したのです。

問題は、私たちは今どうか？です。私たちの信仰が彼らと同じようなものかどうかです。神がお喜びになるような信仰をもって私たちは今生きているかどうかです。自分自身の歩みを見て私たちはきっとこのように言うでしょう。「私はだめです。失敗ばかりだから、失敗に次ぐ失敗で、余りにも愚かで、余りにも弱くて…」と。確かに、私たちはそのような者です。

最初に話したルターが教会の扉に貼り付けた95箇条、その最初にこのようなことばが記されていました。「我々の主であり、師、つまり、教師であるイエス・キリストは『悔い改めよ』などと言われたことによって、信徒の全生涯が悔い改めであることを求められたのである。」と。神は神に逆らい続けて来た私たちにその罪を悔い改めなさいと命じられました。罪を悔い改めてわたしが備えた救いを受け入れなさいと。私たちはそのようにしました。最初に見たように、神の前に間違っていた私たちは、その間違いに気づき、それを神の前に悔い改めて、私たちは正しいこと、主の御跡に従っていこう、この唯一真の神を私の神と信じ、この方が備えてくださった罪の赦しを心から信じ受け入れてこの方に従っていこうと決心し、そうして私たちは救いに与りました。主は私たちが悔い改めに召してくださった。ルターは言います。それなら、その神はあなたに救われた後も悔い改めの生涯を生きることを望んでいると。どういうことですか？日々、私たちは自分の罪を神の前に悔い改めながら生きていくのです。日々、私たちは自分の罪を神の前に告白して悔い改めて、主に従い続けて行くのです。そのようにして私たちは生きていくのです。

私たちは神によって変えられました。信仰者の皆さんはみなそうです。あなたは新しく造り変えられたのです。でも、私たちがこの救いに招かれたときのことをよく考えてみると、自分自身では自分を変えられないことを学ぶまで、私たちは変わらなかったのです。なぜなら、そのときまで、私たちは自分で自分を変えることができると信じていたからです。しかし、私たちは気付いたのです。そして、私たちを変えてくださる神に助けを求めたのです。そうでしょうか？皆さん。もし、今も自分の力で自分を変えようとしているのなら、残念ながら、それはできません。自分で自分を変えることができると思っ

ているその高慢さを捨てる必要があるのです。

それなら、私たちが信仰者として生きていくときに必要なことは「神さま、どうぞ、私を変えてください。」です。「私はいろいろなときに一生懸命試みて来たけれど、自分で自分を変えることができない、どうぞ、変えてください。」と、変えてくださる方のところに私たちが助けを求めていかないと、私たちは変えられないのです。ですから、ルターが言うように、私たちはまさに、悔い改めの人生を生きること、いつも神の前にその罪を告白して悔い改めて主に従って行くのです。このことは私たちのプライドから言うなら、非常にみっともない生活かも知れません。しかし、神の前に立つなら、それは正

しい生活なのです。そのようにして生きるのです。そのように信仰者たちは生きて来たのです。

あなたはどうですか？悔い改めの日々を過ごしておられますか？宗教改革が始まった、確かに、一人の人物の功績は大きかったかもしれません。でも、あなたはあなたが変わることによって、神はどのようなことをあなたを通して為されるか考えたことがありますか？宗教改革は起こって国は変えられて行きました。残念ながら、私たちの国にはまだそのようなことは起こっていません。もしかすると、このような信仰をもつ人が余りにも少なすぎるのかもしれませんが。それなら、今日、私たちは神の前に「主よ、私はこのような信仰者として今から生きていきたい。」と決心して歩みませんか？「私の為すことすべてが神を愛する愛が動機となって為すことができるように。もっとあなたを愛して、その愛によってすべてのことを為すことができるように。あなたは私を救いへと招いてくださった。そして、私たちにいろいろな働きをくださっている。その務めを喜んで心からやっていきたい。そして、私のすべてをご覧になっているあなたを恐れながら、あなたにお会いする日を楽しみにしながら今日という一日をあなたに喜んでいただきたい。そして、そのすべては神さま、あなたの助けがなければ無理なのです。人と会うときも、友人と話すときも、家族と話すときも同僚と話すときも、すべてのときにあなたの助けが要るのです。主よ、助けてください。あなたに喜んでいただく歩みをするためにはあなたの助けが必要です。」と。

そのような思いをもって、そのような決心をもって、そのような祈りをもって、今日から歩み出されませんか？神は確かに、いろいろな人を用いられました。でも、共通しているのは、主の前に正しく歩み続けたいと願った者たちです。そして、その可能性はあなたにもあるのです。あなたがどのような選択をして今日から生きるのか？です。神が喜んでくださる、そのような歩みを今日から始めてください。その歩みをしている皆さんはどうぞ続けてそのように歩んでください。神はどのようなことを為さるか、それは神のみこころです。でも、少なくとも、神が喜んで用いようとする人にならなければならないことは、私たちの責任です。どうぞ、主が喜んで用いる、そのような信仰者として、神が喜んでメッセージを託してくださる、そのような信仰者として、そして、この世の人たちがこのすばらしいメッセージを聞くために、神が用いてくださる信仰者にあなたがなりたいと今日願って、この方の前に助けを求めて出て来てくださることを願います。

#### 《適用》

1. 聖書のみことばを正しく語る
2. 主によって召されたことを自覚して語る
3. 主によるさばきを覚えて語る
4. 主の恵みによって語る

#### 《考えましょう》

1. 聖書のみことばを正しく語ることが、どうして重要なのでしょうか？
2. キリスト者にとって、主によるさばきの日（キリストのさばき）を覚えて生きることが、どうして重要なのでしょうか？
3. 主の働きを行なうために、どうして主の恵みが必要なのでしょうか？